

長野工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	都市デザイン		
科目基礎情報							
科目番号	0027		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	生産環境システム専攻		対象学年	専2			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 桑野園子編「音環境デザイン」コロナ社, 参考書: 日本騒音制御工学会編「地域の音環境計画」技報堂出版, 建築学会音シンポジウム資料						
担当教員	西川 嘉雄						
到達目標							
都市デザインとして都市空間に望まれる音環境を説明できること。特に、その都市空間にふさわしい音環境を「景観への調和・騒音制御・信号音や音声情報の伝達など」の視点で説明ができる。以上の内容を満足することで学習・教育目標の(D-1)及び(D-2)の達成とする。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
都市計画法の用途地域に関する事項		都市計画法による用途地域と都市計画事業を理解し、具体的な都市計画の事例を説明できる。	都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できる。	都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できない。			
都市空間における音環境に関する事項		都市空間に望まれる音環境を説明でき、それぞれの空間に適切な音環境の目標を設定できる。	都市空間に望まれる音環境を説明できる。	都市空間に望まれる音環境を説明できない。			
騒音制御・音声情報伝達に関する事項		騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明でき、適切な目標設定や設計が出来る。	騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明できる。	騒音制御・信号音や音声情報の伝達などの最適な状況について説明できない。			
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	都市デザインのあり方を、都市空間における音環境の快適性と情報伝達を題材とし習得する。まず、都市計画法の用途地域や都市計画事業について理解する。さらに、都市空間における音環境の現状を理解し、騒音制御・信号音や音声による情報伝達・サウンドスケープ手法などを用いて景観に調和した音環境の創造について考える。						
授業の進め方・方法	講義は、概要の説明後に、各自調査や資料収集を行いレポートを作成する。また、音環境測定や信号音の作成などを行い報告書をまとめる。なお、この科目は学修単位科目であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要である。事前・事後学習として課題等を与える。						
注意点	<成績評価> 試験 (70%) および教科書を基に適宜出題するレポート・報告書 (30%) の合計100 点満点で学習・教育目標の (D-1) 及び (D-2) を評価し、合計の6 割以上を獲得した者をこの科目の合格者とする。 <オフィスアワー> 毎週水曜日16:00~17:00, 環境都市工学科, 西川教員室。この時間にとらわれずに必要に応じて来室可。 <備考> 常に街をある行くときなどは、都市空間と音環境のかかわりなどを意識することが重要である。なお、本科目は学修単位であり、授業時間30時間に加えて、自学自習時間60時間が必要です。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	都市計画法	都市計画法による用途地域と都市計画事業について説明できる。			
		2週	都市空間の音環境の概要/公共空間の音環境	都市空間の音環境の基礎事項として、公共空間の分類が説明できる。			
		3週	騒音による生理的・心理的影響	環境が都市の印象に与える影響、生理・心理的影響について説明できる。			
		4週	会話・作業・聴取妨害	音の評価がかわる基本事項について説明できる。			
		5週	都市空間の音環境に関する法規制	国際規格や国内法規(環境基準や騒音規制など)の概要を説明できる。			
		6週	都市空間における音環境の実態/調査方法・評価方法	音環境の調査方法、目的、結果の考察方法についての的確に説明できる。			
		7週	交通機関(駅、空港・乗り物など)	音環境の調査結果により、その場に応じた望ましい音環境について説明できる。			
		8週	商店街・地下街・商業施設	音環境の調査結果により、その場に応じた望ましい音環境について説明できる。			
	4thQ	9週	公共施設・公園・緑地	音環境の調査結果により、その場に応じた望ましい音環境について説明できる。			
		10週	都市空間の信号音のデザイン/危険・情報を知らせる音	警告音、サイン音、報知音や音声による避難情報などの特徴を説明できる。			
		11週	高齢社会に配慮した音	高齢者の聴覚特性を考慮した信号音について説明できる。			
		12週	景観と音の相互作用	景観と音の関係の概要を説明できる。			
		13週	視覚と聴覚の相互作用の基礎知識	視覚と聴覚が景観に及ぼす影響を説明できる。			
		14週	音が景観に及ぼす影響	音が景観に及ぼす影響について説明できる。			
		15週	サウンドスケープデザイン	サウンドスケープの概念を説明できる。			
		16週	達成度の確認				
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	70	0	0	0	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0